

## 【水について考える】

沖縄県

南風原中学校

二年

城間 しろま 優汰 ゆうた

私たちが生きていく上で、水はなくてはならない物です。飲料水としてはもちろん、トイレや洗濯、お風呂などにも、水は必要になります。そんな便利な暮らしに欠かせない水ですが、世界では、水問題が深刻になっていきます。世界が抱える深刻な水問題には、一体どのような問題があるのでしょうか。

水問題の一つに、水不足があります。地球は、水の惑星と呼ばれており、地球の表面の三分の二は水で覆われており、約十四億立方キロメートルの水があるとされています。そう言われてみると、一見、水不足というのは嘘のように思えてきます。しかし、約十四億立方キロメートルもある水の中に、私たちの生活に利用可能な水資源は、わずか0.01パーセントしかありません。その理由として、地球上の水の多くは塩分を含む海水で、その割合が九十七パーセントも占めており、残りの三パーセントの淡水も、多くは氷雪、氷河の形で存在しており、利用できないからです。さらに、液体の状態で存在している水のうち、ほとんどは地下水として地中深くに浸透しています。なので、私たちが利用可能な淡水は0.01パーセントしかありません。水の惑星と呼ばれる地球で

水不足が発生するのはたった0.01パーセントしかない利用可能な淡水を、人間が汚染してしまうからです。

水不足について、日本ではどうでしょうか。日本の年間の平均降水量は、世界平均の約二倍であり、日本の水は、豊富にあるように感じられます。しかし、日本は既に海外から多くの水を輸入していると仮想水と呼ばれる概念から言われています。仮想水とは、農産物や製品の生産に使用された水を、これらの製品を購入した人が間接的に消費したとする考え方の事です。日本は食糧自給率が低く、多くの農産物を輸入しています。農産物を作るには、多くの水が必要になります。その農産物を輸入すると、その農

産物を作るために使われた水も輸入していると言われています。日本が農産物を輸入に頼らず、自国で生産するようになると、農産物を作るために水も必要になるので、日本も水不足と無関係ではない事が分かります。さらに、海外で水不足の問題が深刻になると、農産物が育たなくなり、輸入できなくなる恐れあり、水不足は、私たちにとって身近な問題だという事が分かります。世界には水不足が深刻化していく中で、安全な水が手に入らない人々がいます。世界全体で二十億人、十人に三人が安全な水が手に入らず、またそのうち八億四千四百万人が安全な飲み水さえ手に入らない状況で暮らしています。これらの人々は、池や川の水を利用しますが、中には病原菌や寄生虫によって汚染された水もあり、それらの水は、コレラや赤痢などの死につながる様々な病気を引き起こします。世界で深刻化していく水不足に対して、どのような対策をとっているのでしょうか。ユニセフでは、世界中の村々や学校、保健センターなどに給水所を設置しています。また、海水淡水化技術や下水再利用などを用いて、対策を行っています。

水不足について、世界が重視し、様々な企業が対策を行っている事が分かりましたが、私たちには何ができるのでしょうか。一つは節水を心掛ける事です。そして、水を汚さないようにする事です。当たり前の事が大切になってきます。

世界的に深刻化する水問題の一つである水不足。そのひどさや対策がどのような物だったか理解しました。私たちに節水や水を汚さない事しかできませんが、様々な企業や世界中の人が取り組み、解決しようとしている水不足問題をこれからも見つめていきたいです。